

令和7年度 江戸川区立松江第六中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	【開拓の心を身に付け、志をもち、自ら育つ生徒】 ・学び考える生徒 ・他を思いやる生徒 ・心身たくましい生徒	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○誰もが生き生きと過ごし笑顔溢れる学校。課題に迅速に対応し、積極的に改善・充実を図る学校。保護者・地域から信頼され、安心して生徒を通わせられる学校。 ○自ら学び、考え、判断し、主体的に行動できる生徒。人の気持ちや立場を思いやり、互いを尊重し、高め合うことのできる生徒。向上心を持ち、将来にわたって進んで地域や社会のために役立つとする生徒。 ○生徒の成長を一番に考え、常に工夫や改善の意識を持ち、互いに高め合いチームで教育活動を推進できる教師。生徒の身近にいる大人として魅力のある教師。
前年度までの本校の現状	成果 ・上級生が良い見本となり、学校が落ち着いた状態を維持できている。授業に集中している生徒が多い。良い伝統を継承し、あいさつが全学年できている。 ・学校行事は毎年ワンランク上を目指し、3年生が手本となり下級生を引っ張っている。 ・安定した小中連携ができている。また地域からの期待も高いが応えることができている。	課題 ・学力の2極分化が進んでいる。学力的に低い生徒へ学習意欲を高めさせ、学力を向上させることが難しい。 ・不登校生徒の出現率が8%台から6%台に減ったが、特別な配慮を要する生徒も多いため、引き続き新規の不登校生徒が出ないように細やかな配慮が必要である。 ・教職員の労力の担うところは大きく、働き方改革は進んでいない。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価（A~D）		「年度末」学校関係者評価（A~D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得	・授業ユニバーサルデザインの徹底・コンテストや検定の計画的な実施・「ドリルパーク」の活用	・検定合格率75%以上 ・授業に関する肯定的評価93%以上	50%	60%	B	授業UDについては徹底できている、検定も計画通り行っているが、合格率は未算出。アンケートも未実施。	B	生徒は落ち着いて授業を受けている。	B	合格率は英検60%、漢検67%、数検86%、平均71%。「分かり易い授業」の肯定的評価95%であった。	B	生徒は落ち着いて授業に臨んでいる。授業態度もとても良い。教員を信頼している。	学力向上につながる学習習慣や意欲喚起の方法を検討する。
	○研究授業、都教委訪問等を通じた、教員の授業力、指導力の向上	・管理職による授業観察 ・道徳の授業力向上のための授業研修実施・講師の招聘	・道徳の授業力向上に関する自己評価80%以上	50%	60%	B	授業観察は予定通り行っている。道徳授業力研修は11月。	A	若い先生が多いが、工夫した授業を行っている。生徒との関係性も良い。	B	12月に講師を招聘して道徳授業力向上研修を行い、その後の道徳授業地区公開講座での授業づくりの参考になった。	A	ICT機器を上手く使い、生徒に興味をもたせ、授業を展開している。	楽しくて学力がつく授業スキルの向上。
	○読書科の更なる充実	・一人一台端末等の効果的な活用 ・情報収集力・プレゼンテーション能力の育成	・プレゼンテーション発表を1人年間10回以上行う	50%	70%	B	タブレットの効果的な活用を図っているが、年度末に検証。プレゼンテーション発表は2学期がメイン。	B	タブレットを活用した授業が多く、生徒の興味・関心を高めている。	B	各教科で行うプレゼンテーション授業を互いに見合うシステムを構築する。特別活動や総合的な学習の時間で効果が表れた。	B	一人一台端末を有効に活用してもらいたい。教員の工夫に期待している。	各々の教科で行っていたプレゼンテーション授業を校内でオープンにし、見合えるようにする。
体力向上	○運動意欲や基礎体力の向上	・体育授業時の補助運動の実施 ・昼休み時間の運動の奨励 ・運動部活動加入率の向上	・運動部活動加入率50%以上 ・体力合計点の個人前年比+が60%以上	50%	50%	B	運動部活動加入率61%。体育授業時の補助運動の励行。体力テストの分析は2学期以降に実施。	B	好成績をあげた部活動は地域に紹介すると励みになり、また地域からの注目も集まる。	B	1・2年生女子のスコアが低い。運動習慣を付けること、小中連携しての体力向上が必要である。	B	スポーツ推薦での高校合格者はいるかを知りたい。	小中連携しての体力向上のための取組を行う。
	○健やかな体の育成	・基本的な生活習慣の徹底 ・身だしなみや正しい姿勢の指導	・保護者アンケート「基本的な生活習慣」に関する肯定的評価95%以上	50%	60%	B	基本的な生活習慣の徹底を行っている。保護者アンケートは2学期末に実施。	B	遅くまで起きてゲームをしているなど生活習慣の乱れが心配である。	B	「快適睡眠週間」調査によると、20%の生徒が0時過ぎに就寝、55%の生徒が朝カーテンを開けない等の結果があった。	B	家での生活習慣は、家庭でしっかりと管理していかなければならない。	快適睡眠週間調査の継続と、結果について保護者へのアナウンスを行う。
	○体力テストに向けた準備と正しい測定方法	・体力テストにおける目標値の提示 ・準備運動と練習時間の確保	・体力合計点を前年比+5% ・区の平均を上回る	50%	50%	B	体力テストへの新たな取組を実施。分析結果については2学期に予定。	B	準備運動を行ったり、練習期間を設けるのは良い。	B	取組を継続する必要がある。区の平均を上回ったのは2・3年男子のみ。	B	体力向上の取組を続けていくことが大切だ。1・2年の女子の体力はなぜここまで低いのか疑問である。	体力テスト前の「体力向上週間」と「準備運動」の継続。昼休みの遊具を充実させる。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用・連携	・授業UD実施率100% ・週1回の特別支援委員会の開催	90%	90%	A	毎週の特別支援委員会での情報共有・専門員によるニーズの確認・今後の方針の確認ができている。	A	教室や廊下はきれいに整えられている。古い校舎だが清掃も行き届いている。	A	情報共有や今後の方針の確認が適切にできている。通級指導を受けた生徒全員が進路を自らの意志で選択することができた。	A	特性のある生徒たちが適切なサポートを受けて進路を決められたのはとても良い。	入れ替わりがあっても継続した連携が可能な関係づくり。
	○エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルームの保護者への理解啓発	・学校だより、学校ホームページにてエンカレッジルームを紹介	20%	50%	C	1学期までに紹介の記事が掲載できなかった。	-	言及なし	B	学校だより11月号に紹介の記事を掲載。HPでもアナウンスを行った。その効果か、3学期から入級した生徒があった。	-	言及なし	エンカレッジルームの紹介を継続して行う。
	○別室登校生徒への働きかけの推進	・不登校対応巡回教員、別室指導支援員の活用・連携、教室への復帰の促進	・別室登校生徒数の削減	80%	80%	A	別室登校生徒が現在のところ1名。2名が教室復帰を果たしており、継続している。巡回教員との連携も取れている。	A	教室復帰は朗報。	A	2月時点で別室登校生徒は1名で変わらず。進路について適切に指導し、高校進学予定。	A	別室登校生徒が教室に行けるようになったのは大変良かった。	別室希望の生徒がいた場合にすぐに対応できるようにする。
不登校・いじめ対策	○豊かな心の育成	・道徳授業の充実 ・縦割り活動の充実 ・「あいさつ」「返事」「感謝の言葉」の励行	・保護者アンケート「道徳授業の充実」「基本的な生活習慣」肯定評価95%以上	50%	70%	B	運動会での縦割り活動の充実。保護者アンケートは2学期に実施。	A	運動会での縦割りの活動がとても良かった。色別の種目が増えた。	B	「道徳授業の充実」92%、「基本的な生活習慣」97%。あいさつ・返事は定着しつつある。縦割り活動も充実している。	A	あいさつや返事は今後、松六の生徒たちが生きていく上で大事なスキル。続けて欲しい。	あいさつ・返事・感謝の言葉が飛び交う温かい学校の雰囲気保持。
	○不登校対策の実施・充実	・いじめアンケートと担任面接の実施 ・特別支援委員会の充実	・不登校生徒出現率6%以下。新規不登校生徒出現率2%以下	90%	70%	A	9月現在不登校出現率5.2%。新規生徒は0人。いじめアンケートおよび担任面接の実施。特別支援委員会の充実。	A	新たな不登校生徒が出ないよう細やかに目配りを、	B	3月現在不登校出現率5.9%。9月から2名増加。学習不応の生徒が新規不登校。細やかに面接を行うが不調。	B	いじめや他との関わりの不応ではない不登校について、難しいが、対策を講じていく必要がある。	不登校にならないための関わりを担任だけでなく複数の大人でもつ。

応の充実	○教育相談の強化	・スクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカーとの連携強化	・どこにも繋がっていない生徒を0にする	90%	90%	A	9月現在どこにも繋がっていない生徒0人。連携は充実している。	A	きめ細やかに対応している。	A	年度未現在、どこにも繋がっていない生徒は0人。引き続き連携を強固にしていく。	A	学校や関係機関が連携し、適切に関わっている証拠である。	引き続き、連携を強化する。
学校(園)の地域社会に開かれた実現	○学校だより、学校ホームページの充実等	・学校だよりの定期的発行 ・学校ホームページの定期的更新 ・tetoruによる情報発信	・毎月の発行 ・週1回以上の更新	100%	100%	A	全て予定通り。HPの更新は副校長の努力により2日に1回程度。	A	学校だより、学校ホームページともに生徒の様子がよくわかり、充実している。	A	予定通り発行しているとともに、HPの更新は随時行っており、閲覧数も1日200件以上である。	A	学校の様子がよくわかる。続けて欲しい。	引き続き、計画的に定期的に学校の様子を発信する。
	○学校関係者評価の充実	・生徒、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・生徒へは年2回、保護者・地域へは年3回の授業公開時と2学期の4回実施	50%	50%	B	保護者アンケートを予定通り実施。全データを公開。回収率の低さが課題。	B	スマートフォンを持っていない場合とても回答しにくい。	B	学校評価の保護者アンケートの回答率が昨年78%から40%に激減した。アンケート回収方法に工夫が必要である。	B	いろいろな保護者が、さまざまな意見や考え方があり、対応する学校の苦勞が理解できる。	無記名式にする、三者面談の待ち時間に回答させる等の工夫をする。
	○地域から愛される生徒の育成	・防災訓練、地域の祭り、ボランティア活動への生徒の参加	・生徒の半数以上をボランティアに関わらせる	90%	70%	A	ボランティア生徒は9月の時点で増加しつつあるが、年度末に集計予定。	A	地域のまつりや運動会でのボランティア生徒には助かっている。	B	中央・一之江ふるさとまつり、五町会防災訓練が雨天により活動が縮小。地域ボランティアの裾野を広げていく工夫が必要。	A	生徒のボランティア参加が非常に助かっている。教員にも地域の祭などに来てもらおうと、松六への進学率が上がると思う。	地域ボランティアに参加させるための工夫をし、多くの生徒が参加できるシステムづくりを行う。
教育の特色ある展開	○働き方改革の推進	・週1回のノー残業デーの実施 ・働き方マネジメントの推進	・月平均時間外労働時間昨年度より15%減または45時間以内達成50%	20%	50%	C	ノー残業デーを意識しているが退勤にはなかなか繋がらない。時間外勤務時間のデータを示しつつ声掛けを続ける。	B	早く帰れる時は早く帰るというスタンスで良い。	B	R6年度の平均時間外労働は51時間、R7は43時間と一定の減少は見られる。前年度から15%減または45時間内は47%。	-	言及なし	働きやすい職場づくり、退勤しやすい雰囲気づくりを進めていく。
	○自分の思いや考えを相手にしっかりと伝えることのできる生徒の育成	・グループ活動・縦割り活動・アウトプットの機会の増進	・2回のアンケートで自身の姿が感じられる生徒を40%以上	50%	60%	B	2学期の生徒アンケートにて姿を測る。アウトプットの場面を全教科で実施。	B	一朝一夕でできるようにはならない。継続した働きかけを行う。	B	プレゼンテーションを得意としたり、好きという生徒の割合は決して多くはないが、多くの機会を経て確実に上達している。	B	自分の考えをしっかりと相手に伝える力は必要である。継続した取組を望む。	好きでなくとも、得意でなくとも、必要に応じてアウトプットができる生徒を育てる。
	○小中連携教育の推進	・小中連携プログラムの推進 ・年間を通しての連携を充実させる	・令和8年度の新入生81名以上(3クラス)の確保	80%	80%	A	9月現在、昨年より充実した連携が図れている。	B	小学校との連携を進め、これを売りにすることが大切ではないか。	A	連携は継続して行われており、プログラムのブラッシュアップ及び深化を図っている。新入生も90名以上を確保した。	A	近隣校に児童が流れず、自信をもって松江六中を選択して進学して欲しい。	年間を通じて双方の教員が行き来できるような連携のかたちを探る。